



愛ある宕

令和6年7月19日(金)号



本日7月19日(金)、1学期の終業式で全校児童に話した内容をお伝えします。

○1学期の始業式・入学式では、笑顔あふれる学級・学校・地域になるために「あたごの心」を大切にしようと話しました。1学期の間、「あたごの心(温かい心…ありがとう、楽しむ心…楽しく学ぶ、ごまかさない心…ごめんなさい)」がどのくらいできたかを、5段階で一人一人心の中で振り返りました。「これからも『あたごの心』を大切に、満点になるように過ごしましょう」と話しました。

○夏休みに大切にしてほしいことを二つ話しました。

健康で過ごそう

運動すること、宿題をすること、お手伝いをすること、遊ぶことも、「健康」でなければできません。家族で出かけるとき、地域の行事に参加するときも、「健康」に過ごしていれば楽しくできます。夏休み中は、やってみたいことも、やる時間も多くのことを自分で決められます。規則正しい生活(早寝、早起き、朝ごはん)をしていつも健康でいれば、充実した夏休みになります。

家のお手伝いをしよう

いつもおうちの人がしてくれることの中から一つ選んで、お手伝いをしましょう。愛宕小の子は、係の仕事や掃除がよくできます。仕事がきちんとできると、まわりの人が助かり、喜んでもらえます。信頼してもらえます。信頼してもらえると、自分に自信がもてます。何ができるか自分で考え、おうちの人と相談してお手伝いをしましょう。

最後に、「8月28日2学期始業式の日、愛宕小学校の子が全員、元気に登校してくれるのを待っています」と伝えました。



願いごと



子供たちが教室の机に赤や黄色の短冊を置いて、小さな頭をひねります。普段より一文字一文字ていねいに書くのは、願いに込めた気持ちが強いからでしょう。その瞬間、子供たちの純粋さで満たされた空気を感じます。笹の枝に短冊をこよりで結びます。結んだ短冊に、手を合わせる子もいました。

子供たちが帰った廊下で、短冊の願いを一枚ずつ読んでみると、手を合わせる子供の願いの深さがわかりました。「家族がずっと元気でいられますように」「家族が無事に〇〇へ行きたいです」「学級みんなが元気に過ごせますように」「今のクラスのままで6年生まで一緒にいたいです」…風に揺れる頼りない短冊に込められた願いに、胸が詰まりました。七夕の短冊に、家族や学級を愛する気持ちをしたためていました。これは、家庭と地域での育ちにより、心が育まれているからだと思えます。

明日から始まる夏休みには、お子さんと家族・地域のつながりがより一層深まることを願っております。



保護者の皆様、1学期間、学校教育へのご理解とご協力をありがとうございました。